

2024年度 支援学校 仙台みらい高等学園 第1回学校評議委員会

●日 時 2024年5月22日(水) 午後3時30分～午後4時30分

●参加者【本校】 野崎、藤原、菅野、久田、松寿、下村、会津、青山、百井
山口、有馬、佐藤、鈴木

【評議委員】以下参照

●会 場 支援学校 仙台みらい高等学園 寄宿舍食堂

●内 容

1 校長挨拶(野崎)

- ・本年度が開校4年目。昨年度の卒業生・修了生全員が進路を決め、頑張っている。
- ・本年度の入学生は本科が定員を満たしている、学校として順調に成長している。
- ・引き続きご協力をお願いしたい。

2 評議委員紹介

- | | | |
|--------------------------|----|---------|
| ・全国農業協同組合連合会 耕種総合対策部 | 次長 | 岩田 和彦 様 |
| ・社会福祉法人共生福祉会 萩の郷福祉工場 福祉部 | 部長 | 高橋 康弘 様 |
| ・仙台市青葉区荒巻町内会 | | 菊地 希壽 様 |
| ・株式会社ガモウ 広域エリア営業部 東北エリア | 統括 | 井上 英治 様 |
| ・宮城学院女子大学 教育学部教育学科 | 教授 | 梅田 真理 様 |

3 学校運営について(藤原)

- ・昨年度は「完成年度」と言われる年で、本科1期生が卒業していった。開校3年間で一巡したことにより、反省や課題を見出すことが出来た。
- ・今年度、本科定員が充足、専攻科は定員の半分を満たした。
- ・在校生は生徒の適性を見極めつつ、本人の希望を尊重したコース選択となっている。
- ・教職員が同じ方向を向き、統一した指導を行うことが大切。
- ・2024年度 部門運営方針

(1) 質の向上 → 目的達成に向けて効果を考えていく。

(2) 体系化 → 仕組み・体制を整える。

- ・本校の教育について(学校運営計画P4-5)

【グラデュエーション・ポリシー〈目指す人材育成像〉】

【カリキュラムポリシー〈目指す人材育成像〉】

【アドミッションポリシー〈求める人物像〉】

以上のスクール・ポリシーに基づき、

【2024年度重点目標】

- (1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実
 - ⇒「指導の個別化」「学習の個性化」の推進
 - ⇒専門授業を通じた「協働的な学び」の推進

(2) スムーズな移行支援のさらなる充実と強化

⇒卒業後の生活を想定した在学時からの地域関係機関との連携と活用

⇒専攻科有償インターン制度の運用による企業連携の推進

(3) 課程を活かした教育活動と進路指導の充実

⇒「本科」「専攻科」5年間を前提とした授業内容と進路指導の推進

⇒メジャー制度の運用による柔軟な進路選択の充実

【在籍生徒数】 各科、年次生徒数を報告

【コース別】 本科2・3年生、専攻科2年生のコース別人数を報告

4 各分掌部 重点目標について（学校運営計画P25-45）

【教務部】（松寿）

- ・教職員の共通認識。
- ・規定の整理、学年会議の実施。
- ・諸帳簿の毎月点検。
- ・定期検診後における、受診勧奨対象者の再受診率を50%とする。
- ・保健環境の整備。

【生徒指導部】（百井）

- ・生徒主体の活動⇒生徒それぞれが個性を生かせる活動を実施する。
- ・移行支援の充実⇒部活動の地域移行、卒業後の人とのつながり、余暇活動の幅を広げる。

【進路部】（下村）

- ・進路決定率100%⇒生徒の将来を想定して、長く続けられるような就労先に繋げる。
- ・有償インターンシップの仕組みの確立⇒実績1件以上。
- ・卒業生、修了生の定着支援、実態調査⇒在校生につなげる
- ・メジャー制度の仕組みを構築。
- ・全教職員で企業開拓ができる仕組みの構築。

【地域支援部】（久田）

[支援]

- ・地域住民との関係の充実⇒近隣大学と年2回以上のイベントを実施予定。
- ・困り感のある教職員に指導、助言。
- ・専門性向上のため、3か月に1回研修を実施する。

[研究]

- ・教職員の知識技術の向上。
- ・授業づくりの研修実施。
- ・アセスメントを基にしたケース検討、研究授業を実施する。

【防災環境整備部】（相澤）

- ・いろいろな災害が起きたことを想定した対策、避難方法の学ぶ機会を設ける。
- ・避難経路の掲示。

【事務部】（会津）

- ・事務局と連携し、経理のチェック体制の構築。
- ・広報、保護者説明会の際に活用できる5年間の学費資料の作成。
- ・教務や進路指導と連携した書類作成、申請手続き。

【舎務部】（鈴木）

- ・余暇活動の充実を図る。

【広報部】（鈴木）

[動員]

- ・DM作成、イベント案内。
- ・個別相談や平日の授業見学の実施。

[歩留]

- ・広報研修を年2回実施。
- ・在校生スタッフの育成、オープンキャンパスでの授業体験の実施。

5 質疑

6 指導助言

【岩田様】

- ・開校3年が経ち、現状維持ではなく、意欲的な第二ステージに向かっていることに感心する。
- ・メジャー制度に期待。ただ、本科がマイナー（メジャーよりレベルが低いというイメージ）にならないように配慮が必要。
- ・地域クラブとの連携、非常に良い視点。
- ・教職員のメンテナンスも気を付けて運営する必要がある。

【高橋様】

Q 地域移行、具体的にどのようにするのか、費用等の管理はどうするのか。

A 陸上クラブ、今後卓球クラブも実施予定。費用、学校は干渉しない。

Q 教職員のスキル向上計画や評価は行っているのか。

A 学内、学外、三幸学園として研修を実施している。

宮城県主催の研修にも参加、教職員で集まって研修。

グループ分けをしながら適切な研修を実施予定。

【菊地様】

Q 健康診断の受診率について、なぜ50%という設定なのか。

A 母数として、欠席者や受診勧告の未受診者が少ないため、50%という割合で設定している。

家庭と連携して受診してもらえるように仕組みを保健と一緒に考えていく。

- ・生徒が大人しい、内にこもっている⇒あいさつの徹底。
- ・販売会だけでは面白くない、昼食会を外で開催してみてもどうか（芋煮会等）。

【井上様】

- ・仕事の魅力がどれほど伝わっているのか ⇒ 専門学生との協力。
- ・イベントの様子を見てもらう ⇒ 魅力を伝えることができるとよい。

【梅田様】

- ・私立でしかできないことをやってほしい、公立には無い、私立ならではの良さを発揮してほしい。
- ・教職員が長くて勤めて、スキル向上し、やりがいをもって働く学校であってほしい。

7 教頭挨拶（菅野）

- ・本校の入学資格について、療育手帳の所持が前提だったが、発達障害、精神保健福祉手帳のみでも入学可になった。そのため、生徒の状況が昨年度までと異なる。
- ・教職員のスキル向上は必要。研修等で障害者雇用を行っている企業等で学ぶような機会を設けることも有用であると考えている。
- ・センター的機能として、三幸学園仙台地区姉妹校のサポートを実施。特別支援教育コーディネーターとスクールソーシャルワーカーが、毎週月曜巡回を行い、支援が必要な生徒の観察、教職員支援を行っている。この点が学園ならではの取り組みであり、支援学校の役割として広げていきたい。